

## 大阪市イノベーション促進評議会 令和3年度第2回 会議要旨

### 1 日時

令和4年3月22日（火曜日）15時15分～16時56分

### 2 場所

大阪イノベーションハブ（OIH）、及びWeb

### 3 出席者

北岡委員長、岡委員、フォーリー委員、山本委員  
事務局（川村部長、田原課長代理、瀧上課長代理ほか）

### 4 議題

- （1）令和3年度の主な取組みについて
- （2）令和4年度の取組み方針について

### 5 会議要旨

議題（1）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見具申。

[主な発言内容]

- ・産学官連携の取組は複数あると思うが、取組をまとめたものがあればスタートアップを支援する側として活用しやすい。
- ・どのベンチャーキャピタルが関西に進出しているのか、または進出の意向があるのか等のデータベースの作成や、ベンチャーキャピタルのコミュニティ化を図ることにより、スタートアップとのマッチングの精度が上がるのではないか。
- ・関西においてもスタートアップにとってキャピタリストとの面談の機会などが増え、5～6年前に比べると資金調達がしやすくなったと感じる。
- ・いくら技術が素晴らしくても、それをマネタイズ、ビジネスモデル化、組織のチームビルディングなど会社を大きく成長させるような事業開発、それを実行できる、やる気のある経営者がまだまだ関西には少ない。
- ・イノベーションの取組が見える化し、市民を巻き込むことにより、社会全体として楽しめるように取り組んでいくことが重要ではないか。

議題（２）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見具申。

[主な発言内容]

- ・カーボンニュートラル施策の実施にあたっては、単純なCO<sub>2</sub>削減だけではなくて、もう少し広義で捉えてアドバイスできるコーディネーターやメンターを揃え、見える化が必要である。
- ・大阪のスタートアップ・エコシステムにはどのステージにどのようなスタートアップが存在しているのかが海外から見て分かるデータベースの充実を図るべきである。
- ・海外の政府系機関と連携を強化するというのであれば、在阪の起業意欲のある学生にメリットのある交流プログラムが実施できるのではないか。
- ・今後、関西がイノベーションやスタートアップ・エコシステムも含めて伸ばしていくには、産学官連携がマストであるが、経営人材が不足している。人材のプラットフォームやネットワーク化などを今後進めていくことによって、関西のスタートアップ・エコシステムを構築することができると思う。
- ・経営人材に関して、欧州では大学のエンジニアがアイデアはあるがどうビジネス化するか分からないときに共同創業者を探すアクセラレーションプログラムがある。大阪でもそのような枠組みで支援が出来れば良いと思う。
- ・エンジェル投資家が幅広いスタートアップに巡り合えるようなネットワークが構築出来れば良い。
- ・万博についてスタートアップから参画したいがどうすればいいかよく分からないという声を聞いているので、参画できるプログラムがあれば周知してほしい。
- ・大阪は中小企業が多く存在するが、中小企業においてもスタートアップが組むことによって今までなしえなかったことが実現できるので、マッチング機能があれば中小企業も恩恵を受けることができ、ひいては大阪全体がイノベーション化出来ると思う。